

東京大学国際交流課長の青木です。

本学の小野国際部長がご挨拶すべきところですが、本日欠席のため、預かってまいりました挨拶文を私が代読させていただきます。

昨年、8月デリー、チェンナイ、マイソール、バンガロールでの日本留学フェアに皆さんと一緒に参加しました。日頃、何かと皆様にはお世話になっておりますこと、厚く御礼申し上げます。

1. 東京大学は10学部、15研究科を持つ総合大学ですが、学生数約28,000名に対し留学生が4,286名（平成27年度通年実績）であり学生に対する留学生の比率は約15%と十分ではなく、キャンパスのグローバル化の為には留学生数の増加が望まれています。

本学はスーパーグローバル大学創生支援事業のタイプAに採択されており、その活動として世界のトップ大学、有力大学と戦略的パートナーシップを結び先端共同研究の実施や国際交流を拡充すること、また学事暦の改革などを通じて学生の流動性を高めるとともに学生の海外派遣やトライリンガルプログラムなどにより学生の国際的な資質の向上に努めています。

本学はグローバル30に採択された際にアジアとの人的交流の強化を打ち出し、潜在能力が高く、成長著しいインドとの交流拡充・留学生獲得を目指しました。

2. 東京大学は、2012年1月に初めてインドに進出し、G30海外共同事務所としてバンガロールに事務所を立ち上げました。その後、2014年文部科学省より留学コーディネーター配置事業（インド）を拝命したことを契機に、2015年12月にニューデリーのインド工科大学デリー校近くに引っ越して、現在、JSTとの共同事務所を運営しております。

そして、大使館と4つの総領事館、JST、JICA、JF、HIDA、JETROといった各機関、立命館インド代表や現地教育関係代表者など密接に連携しながら、優秀なインド人材獲得を目指してインドでの旗振り役的活動を行っているところです。

インド人留学生の数は、JASSOが公表しています2015年5月現在879人という実態にありその獲得は容易ではありませんが徐々に増えてきております。国の人口がインドとあまり変わらない中国から日本への留学生数が約9万4千人を数えており、879人という数字は2桁増えても不思議ではないと思います。お陰様で本学のインド人留学生は、2012年5月時点29人から2016年11月時点82人へと増加しております。ただしこの人数はまだまだ不十分であり、今後100人そして1000人を夢見て、吉野所長はインド各地の高校・大学を訪問して、何とかまずは1人来てほしいとアピールし日夜奮闘しております。

3. 日本政府は、現在進行中の第4次産業革命に向けて日本再興戦略2016を閣議決定し、イノベーション人材の育成と確保政策を宣言して諸政策を推進中でありますこと、皆様ご承知の通りです。そんな中で、今や日印関係が大きく花開き新たな時代を迎えています。日印は、単なる二国間関係をを超えて、「特別戦略的グローバル・パートナーシップ」の関係を有して、毎年首相が交互に相手国を訪問し首脳会談を重ねており、首脳間の関係は緊密で強固の様であることがうかがえます。昨年は11月10日～12日にモディ首相が訪日されましたが、日印原子力協定が署名され、ムンバイ・アーメダバード間高速鉄道建設に関するロードマップが公表される等、着実な日印関係深化が目に見えるかたちで進んでおります。12日に東京から神戸まで一緒に新幹線に乗り、2時間45分間も首相同士と一緒に向かい合って過ごされたことは異例のことであり、日印両国の首相同士の緊密さを示したものと感じます。

4. 一方で、日印関係はまだまだ発展途上であります。特に人的交流の分野での取組は課題となっており、現地では平松大使がリーダーシップを取って、自ら大学等を訪問されるなど産官学オールJAPANでインド人材獲得を目指しているところです。

本学では、ノーベル物理学賞授賞者の梶田隆章宇宙線研究所長が昨年10月、そして今年新年早々1月3日にインドを訪問し現地で講演しております。本年度は2回にわたりSTS forumがインドで開催され古谷理事副学長がこれに参加訪問しております。加えて、JST主催によりSICORPで日印共同研究事業3件の立ち上げ式が開催されて、これには羽田理事副学長が参加しました。その他、世界展開力強化事業（インド）にて関係4大学が日印双方向での交流を積極的に展開中でありますし、各方面の多くの先生方が日印学術交流拡大に向けて活動されております。

5. 日本は世界に類を見ない急激な人口減少時代を迎えつつある一方、人工知能の開発が世界的に注目を集めるIoT時代に入りつつあります。日本再興の鍵は、教育にありとも言われております。インド人留学生獲得は日本再興の為の重要な課題の一つと日本政府は位置付けて種々の施策を決定して進行中であります。

今日はその辺りを皆様と情報共有して、皆さまとご一緒にインドの取組についてご検討いただき、是非インドにお出かけいただければと思う次第です。

以上、代読させていただきました。

では、吉野所長、現地事情の報告をよろしくお願いいたします。